

## 平成26年度経営評価委員による年度末評価

○：よい点    ◇：期待・継続の要望    □：改善点・助言

### 1 平成26年度事業についての意見・感想

|             |   |
|-------------|---|
| <b>経営全般</b> | <p>○本県教育の喫緊の課題である「確かな学力」の育成に向け、特に、算数・数学の学力向上に向けて、全国学力・学習状況調査の詳細な分析、各教育事務所で取り組むモデル単元づくりへの指導、各学校における全国学テ評価のあり方、思考力を高める授業改善の視点等に係る丁寧な資料作成と具体的な指導等について、精力的に取り組んでもらい、本県教育における確かな前進をみる事ができたと感じている。心より感謝申し上げたい。</p> <p>○これまでに比べ、学校が抱える喫緊の課題に対応する研究・研修事業が増えているように感じられる。そのことが、研修受講者の講座に対する評価の高まりとなって表れていると推察される。</p> <p>○全体として、「外に開かれた」事業展開、業務運営の方向があり、県教育センターの存在意義、必要感が高まっていると考えられる。</p> <p>◇教員が研修を受けやすくするために、イブニング研修やサテライト講座、カリキュラムサポートプラザといった様々な工夫を凝らし、積極的に学校の支援・指導に当たってもらっていることに感謝したい。特に、出前サポートにおいて、校内授業研究会に指導主事を派遣してもらっていることにたいへん感謝している。今後ともよろしくお願ひしたい。</p> <p>◇引き続き、学校のニーズ、国の動向などを注視しながら研修や研究を進めてほしい。</p>  |
| <b>研修事業</b> | <p>○受講者アンケートの結果から、「大変よい」「よい」の合計が99%を超えており、充実した講座が実施されていることがうかがえる。</p> <p>○指導主事を講師として招聘するなど、教育事務所との連携がみられる。</p> <p>○初任研について、各校で計画を作成する際に、センターの指導主事より説明してもらったことはたいへんありがたかった。特に今年度初めて校内指導教員（拠点校指導教員）になった先生にとっては有意義だった。</p> <p>○□全国学力・学習状況調査からみられる算数・数学の課題を再確認するとともに、笠井健一調査官から思考力・判断力・表現力を育成する授業のあり方を具体的に指導いただいた。反面、参加者が少なくもったいなかった。県内の算数・数学担当の先生全員に聞いてもらう何らかの対策が必要と感じた。</p> <p>□特別支援学校の10年研について、対象者の数が少ないということはあるものの、アンケートの結果等をなお分析し、よりよい研修となるようにしてほしい。</p> <p>□初任者研修よりも経験者研修においてB評価の割合が概して高い。研修講座の内容や方法をよりいっそう経験者向けに工夫することで、より経験者に必要な研修講座にすることができるのではないか。</p> <p>□いくつかの講座で、受講者の評価が「C」というのが気になる。全員が「A」となることをめざすべきと考える。今後、なぜ「A」でないのかを記入するアンケートに変え、講座のあり方を改善していく必要があると考える。</p> <p>□研修について、研修内容・資料、情報等をさらに共有していく必要を感じる。指導主事間で積極的に意見交換する必要があるのではないか。</p> |
| <b>支援事業</b> | <p>○出前サポート数が増加しており、サポートプラザの趣旨が浸透してきている。</p> <p>○たいへん現場の需要が多く、現場のニーズに応えた事業である。</p> <p>○計画指導訪問でたいへんお世話になった（特に、理科）。</p> <p>◇カリキュラムサポートプラザやサテライト講座など、学校現場が活用しやすい支援・研修はたいへんありがたい。充実を期待しています。</p> <p>◇出前サポートやイブニング研修などの人気が高い。継続を。同時にサテライト講座の充実を。</p>  |

|                      |   |
|----------------------|---|
| <b>研究事業<br/>情報教育</b> | <p>○小・中学校の喫緊の課題である「学力向上」を取り上げていただいたことに敬意を表したい。県教育センターの研究が現場と密着した立ち位置にあることを示している。</p> <p>○今年度末に協調学習のハンドブックを完成させ、全校に配付予定とのこと、ありがたい。</p> <p>○「いじめ防止・対策支援プログラムの検討・作成」については、スーパーバイザーとして30校でいじめ防止の取組みに関する講座を実施するなど、ニーズが高いことがうかがえる。</p> <p>◇いじめの研究成果については、現場に、どう広く発信していくかが課題。</p> <p>◇「いじめ防止・対策支援プログラム」の完成を期待している。発生を予防したり、発生後に対応したりする支援プログラムの充実が求められているのだと思う。</p> <p>◇「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりハンドブック」はUDの基本的な考え方や取組み方がわかりやすく、かつ活用しやすい。さらなる充実を期待したい（UDの考え方は、「環境整備」と「わかりやすい指示や説明の工夫」という段階から、「個々の学び方の違いへの対応の工夫」という段階へと視野が広がってきている）。</p> |
| <b>相談事業<br/>特別支援</b> | <p>○学校経営計画指導訪問における、特別支援学級、特別支援教育についての多大な指導に感謝したい。</p> <p>◇特別支援関係の要請は、今後も増えていくと思われる。可能な限り、需要に応える対応をしてほしい。また、特に言語通級指導者の要請が必要とされている。</p>   |
| <b>連 携<br/>そ の 他</b> | <p>□11月の初任者研修の日程と特別支援学校の公開研究会の日程が重なった。調整が必要である。校長会としてもチェックしていきたい。</p> <p>□家庭・学校・地域の教育に対する「情報の共有」が大切だが、発信する側も、受けとる側も、まだまだ不十分だと感じられる。</p>   |

## 2 平成27年度への取組みについての意見・感想

|                      |  |
|----------------------|--|
| <b>経営全般</b>          | <p>◇今年度の方向性を継承してほしい。</p> <p>□県教育センターの様々な取組みを学校関係者はもちろん、広く県民に知ってもらえるよう、工夫がほしい。県教委主催のフォーラム開催時に県教育センターからの発信を検討してもよいのではないか。</p>  |
| <b>研修事業<br/>長期研修</b> | <p>◇初任者研修の内容について、現場の状況に合わせて軽減を図っていることに感謝したい。今後とも内容の精選を図り、初任者の負担軽減に努めてほしい。</p> <p>□小学校での英語の教科化について、教員の不安が払拭されていない状況である。専門的に学んできたわけではないので不安は当然のことである。県教委が実施している研修計画を職員に説明しても、心配事は解消されないことを口走る教員も数多くいる。小学校の英語に関わる体系的な研修計画を構想してほしい。</p> <p>□小学校「英語」の研修については、英語指導に意欲のある先生もいるはずなので、まずはそういう先生からの研修としてスタートしてほしい。</p> <p>□6教振のコンセプトに「…人間力に満ちあふれた…」とある。「総合的な人間力を高める研修」の充実が求められる。講義形式の研修会ではなく、人間力にあふれた講師による体験型の研修会の充実を期待したい。</p> <p>□管理職・中堅教員研修が必要ではないか。若い先生はがんばっているように思う。課題として、管理職や中堅の主任クラスの先生がマンネリ感を打破し、やる気を起こすような内容の講座が望まれる。</p> <p>□県教育センターの長期研修が魅力的なものとなるように期待する。研修に行ってみたくするような、研修意欲をかきたてるような、長期研修を望む。そのためには、研修内容や方法の裁量幅を広く認めていくような工夫をすべきである。</p> <p>□特別支援学校について、初任者の配置を高等部及び高等養護学校にもできるようにし、初任者研修を幅広い学校や学部でできるようにしてほしい。特別支援学校は学</p> |

|                             |  |
|-----------------------------|--|
|                             | <p>校数が少ないため。</p> <p>□中堅以上の経験者に対しては、その経験を肯定的に尊重しつつ固定観念を打破して教師として成長していけるような内容・方法による研修を充実させてほしい。経験者にとっては自らの実践を振り返る機会となり、初任者にとっては経験者に学んで今後の自分を考えるような、双方の交流活動を取り入れた研修方法も有効ではないだろうか。</p> <p>□教職員による不祥事が相次いで発生していることから、指定研修（初任者研修、経験者研修、管理職研修）等において、綱紀の保持・服務規律の確保について、今まで以上に、時間の確保及び具体的な事例等による指導を行っていく必要がある。</p> <p>□初任者研修の日数を変更（縮小）し、フォローアップ研修を平成28年度から行うことになったが、このことでより効果的な運用が図られるよう内容や実施方法の検討をお願いしたい。また、このことと合わせて、研修体系そのものの見直しも必要と思われる。10年経験者研修の以降の研修のあり方などについても、検討をお願いしたい。</p> <p>□道徳、外国語活動など、次期学習指導要領に向けて、重点化を図ってもよいのではないか。</p> <p>□探究型学習の推進やモデル授業開発等、新規事業も増えてくるので、開設講座の縮小や統合を考えることも必要ではないか。</p> <p>□研修が続く8月の研修日程について、さらに検討が必要である。</p> <p>□2年目、3年目の研修の充実を図る。2年目、3年目の研修と初任研がつながりをもてるような内容をいっそう吟味する必要があるのではないか。</p> <p>□初任者のメンタル面のケアをしていく（指導上の悩みや不安などを語り合う場を設定していく等）必要があるのではないか。</p> |
| <p><b>支援事業</b></p>          | <p>◇「3Dプリンターサポート事業」については、素晴らしい取り組みなので、来年度も継続しながら、普通高校にも広げてもらえればありがたい。</p> <p>◇今後もさらに充実、継続していくため、旅費の確保に尽力願いたい。</p>  |
| <p><b>研究事業<br/>情報教育</b></p> | <p>◇今後の国の教育改革の動向を踏まえながら、これまでの「協調学習」の研究を土台に、小学校から高等学校まで一貫した「探究型学習」の研究システムの構築に向けて、県教育庁の中心として検討してもらったことに敬意を表したい。「探究型学習」の必要性や授業改善のあり方の周知・啓発について、今後も、義務教育課との連携のもと、よろしく願いたい。</p> <p>◇『「協調学習」実践ハンドブック』『いじめ防止・対策支援プログラム』『学び方ノート』の作成・成果に大きな期待をもっている。</p> <p>◇学力向上については、指導方法についての調査研究も大切だが、それと同時に、学ぶ意欲を育てる指導のあり方、つまり、学習、探究したくなる夢・目標をもたせることも大切ではないかと考える。</p> <p>◇「いじめ防止・対策支援プログラム」については、未然防止を大切にしたい。心の教育を充実・推進する方向で進めてほしい。</p> <p>◇特別支援教育の必要な児童生徒に係る生徒指導のあり方を内容に取り上げてほしい。</p>   |
| <p><b>連 携</b></p>           | <p>◇「探究型学習」の研究・実践が学校主体で効果的に進められるよう、県教育センター指導主事と他の教育事務所の共通理解を図る場を設定していく必要があるのではないか。</p> <p>◇来年度もぜひ、学校経営計画指導訪問における指導・助言をお願いしたい。</p> <p>□次年度の研修に係る外部講師の予定について、県単位（義教、県センター、事務所）で調整を図る必要を感じる。</p> <p>□10年研・5年研のセンター研修で配付された資料をできるだけすみやかに事務所で受取できないだろうか。</p>  |

### 3 県教育センターへの期待や要望

|                     |  |
|---------------------|--|
| <p><b>経営全般</b></p>  | <p>□今後の大学入試改革に合わせて、高校入試改革も進んでいくものと思われる。そして、それに合わせた授業改善のポイントを具体的に示していく必要になる。求められている「探究型学習」のゴールの姿を明らかにすることが望まれている。</p>   |
| <p><b>研修事業</b></p>  | <p>□「初任者研修」については、複数年度にわたる研修へと研修制度を改善していくことが必要であると思う。教員の不祥事を予防し、また、子供たちの学力向上を図るためにも、初任者の複数年度にわたる、きめ細やかで体系的な研修が求められると思う。</p> <p>□小学校「英語」研修については義務教育課や市町村教委と十分に協議して、実施願いたい。</p> <p>□研修の充実及び学校や初任者本人の負担軽減のために、初任者研修を3年間でやってはどうか。1年目は教師としての心構えや授業の基本的な進め方、教科についての研修を中心に、2年目は、3年目は、特別活動や道徳、総合についての研修、生徒指導や教育相談、保護者対応や情報モラルなど、担任を経験してからこそ重要性を実感しながら進められる研修を実施するほうが、より実質的であり、有効なのではないかと考える。</p> <p>また、今年度、研修計画作成事務のスリム化について検討・改善してもらったが、さらに検討してほしい（例えば、初任者指導教員が連絡会で、計画書の作成だけでなく、点検まで行うなど）。</p> <p>□経験者研修の担当者を把握する仕組みを強化する必要があると考える。行政側で担当者をリストアップすることができないものか（産休や特休を取った他管からの転入者など、把握が抜けてしまう場合がある）。</p> |
| <p><b>支援事業</b></p>  | <p>◇「いじめ等への初期対応のために」の本校での研修会はたいへん役に立つものであった。新年度も、多くの学校からの依頼につき、よろしく願いたい。</p>   |
| <p><b>研究事業</b></p>  | <p>◇「学び方ノート」を含めて、できるだけ早く「学力向上に係る研究」の成果を現場にフィードバックしてほしい。研究としての重みや妥当性は必要だが、学校の課題は日々変化していく。</p>   |
| <p><b>相談事業</b></p>  | <p>◇教育相談事業については、学校の力が及ばない部分を補っていただき、感謝申し上げます。今後も可能な範囲で情報交換をお願いしたい。</p> <p>◇相談業務の充実を期待する。現場では対応が難しいケースの最後のよりどころとなる相談の場が県教育センターの相談であると思うので。</p> <p>□いじめや体罰に関わる教師や保護者の悩みに応える相談や研修の充実をお願いしたい。特別支援学校では、難しい対応をしなければならない状況がある。</p>  |
| <p><b>連 携</b></p>   | <p>□教員の養成を行う大学、地域の各学校、そして教員の研修の中核となる教育センターが、それぞれの責任を果たしながら連携していける体制を構築していくために、教員研修の効果的なあり方や体系・体制などについての今後の可能性について、検討を行っていくことを期待する。</p> <p>□教育事務所や市町村教育委員会が行っている研修や指導業務（要請指導訪問）との有機的な連携や棲み分けについて、今後も引き続き検討をお願いしたい。</p>  |
| <p><b>そ の 他</b></p> | <p>○「山形教育」の内容が素晴らしいので、購読者が増えるよう、学校での取組みも必要と思う。</p> <p>◇来年度から行われる「探究型学習」の研究は、センターのシンクタンク機能充実の取組みそのものと言える。学力向上に向けた小中高を貫く実践研究は、これまで本県で手がけたことのない大きなテーマ（課題）であるが、校種間の垣根を越え、それぞれが連携することでの大きな成果を期待したい。</p> <p>□「教育県山形」を語るとき、平成16年3月県教育センター発行の『「教育県山形」の実像を探る』という冊子から、しばしば引用している。こうしたすばらしい刊行物もあまり知られていないので、県教育センターの刊行物について、県教育センターのWebページで検索できるように、検討してほしい。</p>  |

- 特別支援教育の理念（安心安全に学ぶことを第一義とする、一人一人の小さな伸びを喜び大切にする、個々の違いを認めて大事にしていく、などなど）をすべての講座に反映させてほしい。
- なかなか研修の機会がない寄宿舎指導員の研修の場を検討してほしい。
- 教育センターで開設している様々な研修講座の講師の内諾依頼を、直接該当校の校長にセンターからしてもらったほうが、事務のスリム化が図られる（講座の詳しい内容や講師の選出意図など、直接説明してもらったほうがわかりやすく、事務的な手間が省けるのではないか）。
- 子供を指導する教職員は、心にゆとりが必要と考える。教職員一人一人が、人間らしい生活が保障されてはじめて理想的な教育活動が可能となるのではないか。教育は人格の完成をめざすという原点にもどり、その営みが可能な教職員や子供たちのゆとり創造のあり方も研究し、普及して行ってほしい。
- これまで以上に、各子供の能力に合わせ、きめ細かい指導が行われることを希望する。また、すべてを教えるのではなく、自主的に覚えようという姿勢が出てくるのを待つ、待ってられる仕組みづくりを期待する。
- 本県を巡る環境の変化や教育課題に対して、戦略的視点に立った教育施策の企画や発展に向け、研究事業等により、一歩進んだものの見方や考え方の研究・実践に取り組んでいくことで、シンクタンク機能の充実を図ることを期待する。
- 県教育センターとしてのシンクタンク機能の充実について、義務教育課や高校教育課と連携しながら、今後も検討をお願いしたい。